

令和5年度天栄中学校区拡大学校運営協議会

○日時 令和5年10月5日（木）15:00～17:00

○場所 栄小学校体育館

○参加者 別紙

1 開会あいさつ

（委員長より）

他の学校の委員さん方と関わる機会が少ないので貴重な時間だと考えている。統合についての話もできればと個人的には思う。今度限りで役を退く方もお見えだと思うがつなげていていただきたい。しっかりと交流を深めていただきたい。

2 講演

鈴鹿市教育委員会事務局

教育支援課 加藤 稔明講師より

「協働型コミュニティ・スクールの事例より」について講演していただいた。

- ・地域と学校の連携・協働の必要性
- ・協働型コミュニティ・スクールとは
- ・春日井市立天神山小学校や日の出小学校および鈴鹿市の協働型コミュニティ・スクールの目指すところについて講演いただいた。



詳細 別紙参照

3 グループの話し合いおよび全体交流（30分）

学校運営協議会としてできることや課題等8つのグループに分け討議を行った。

安全安心活動や環境整備，学習支援，地域連携，防災活動，その他など自由討議を行う。

4 全体交流（20分）Aグループ

・困ったことなど自由に討論した。天名に総合施設が整備され，相撲会場ができた。利用方法について子どもたちが活躍する場など，活性化させたい。白子に大相撲が来るのでつなげていけるとよい。

・子どものスマホ時間が増えている。スクリーンタイムの時間を減らすことを地域と一緒に考えていけないか。地域の人が，携帯持っている子にあまり長い間使用するものではないなど気楽に伝えられるとよい。

Bグループ

・ボランティア活動における話し合いを持った。ボランティアに携わっている方が少ない。栄地区は，子ども教室にPTAが学童に行かない子向けに5，6回催し物をやる。学校と地域のつながりが難しいところもある。地区によっては田植えなどよい例である。統合に向けてボランティアの活動はどうなっていくのかという意見もあった。

C グループ

・小中連携教育の意味について話をした。なぜ連携をしているのか理解していないといけない。中1ギャップ 環境が変わることで不登校, いじめ, 暴力など小学校ではなかった事態になる。環境の変化を緩和させるため, 子ども同士の関係を小学校のうちから作る。また学力においても同じ目標などを持たせることでどの小学校から中学校に来てもある程度一緒に教育のつながりがある。



D グループ

今思っていることを意見交換した。

- ・ゆとり世代の人が親になっている。その中で学力向上を挙げている。
- ・天名・合川は水泳の指導がガーデンで行われ満足している。
- ・統合についても思うところを話しました。

E グループ

- ・生活習慣について話をした。学校と家庭, 地域が同じ目標でやらないといけない。
- ・統合について話をした。子どもが少ないので小学校のうちに運動会や遠足などして知り合いになる。安心につながるのではないか。

F グループ

- ・各学校どんなことをやっているか出し合った。読み聞かせや 田植え, 登下校見守り, 廃品回収などの取り組みなどしている。
- ・連携型や協働型について話をした。

G グループ

あいさつ運動など地域の方と積極的にかかわり安全安心パトロールも行っていただいている。子ども食堂など。



H グループ

インフルエンザなど免疫力が落ちている。運動会も熱中症対策など講じられていてよかった。統合については地域によって思いが違う。稲生小の区別もしっかりしてほしい。

その他・連絡など (委員長)

もうすぐバイパスが完成する。通学に関して街灯や歩道の設置など地元の人でないとわからない部分があるので学校のほうに知らせてほしい。